

# 融資の際、銀行が行う「格付け」とは？

Q&amp;A

**Q：銀行が融資の審査をするとき、「格付け」というのを行うと聞きました。実際、どのようにして格付けしているのでしょうか？**

A：格付けは「定量的評価」と「定性的評価」の2種類の評価で行われているといわれています。定量的評価とは決算書の分析結果をもとに下す評価を指します。定性的評価とは、経営者の姿勢など数値化できない評価。市場動向、市場規模、競合状態、業歴、経営者・経営方針、株主、従業員のモラル、経営基盤、競争力、シェア、経営者の個人資産力などからの評価になります。実質は救済的な意味合いが強く、あくまでも定量的評価を補完する役割に過ぎません。なので「当社の財務内容は良くないけれど、従業員が素晴らしいから融資は大丈夫」とはならないのです。実質的に格付けは基本的に決算書で決まるといってもいいでしょう。

では、銀行は決算書のどこを見るのでしょうか？

簡単にいうと、貸借対照表で最も重要なのは純資産、損益計算書では営業利益と経常利益を重要視しています。

貸借対照表でチェックされるポイントは、主に次の通りです。

- 純資産(自己資本)の金額と比率
  - 流動資産・当座資産と流動負債のバランス
  - 固定資産と固定負債・自己資本とのバランス
  - 有利子負債を何年で返済できるか(営業損益+減価償却の額で5年以内)
  - 資産計上されているもので不良資産がないか
  - 土地・有価証券などで、含み損失が大きくなっているものはないか
  - 前期の決算書と比較して、大きく増減している科目はないか。ある場合その理由
- 損益計算書でのチェックポイントは以下の通りです。
- 前期の決算書と比較して、売上高の増減はどうか。増減の原因はどこにあるか
  - 前期と比較して「営業利益」「経常利益」「売上高総利益率」「売上高営業利益率」「売上高経常利益率」の増減とその要因
  - 販売費・一般管理費、製造原価等のコストのアップダウン状況はどうか。  
コスト削減の努力が見られるか

以上のようなポイントに沿って、銀行はチェックすべき点を次々に書き出していき、融資審査にかけていきます。